

これからの教育環境を考えるワークショップ（第4回） 当日の質疑応答一覧

項番	質問内容	回答者	回答内容
1	問題行動を起こす中学生が多い。小中一貫校となって小学生への影響はどうか？（特に問題行動を起こすような中学生の悪い影響を心配）	いまみや小中一貫校 校長	そういった懸案事項はなく、小学生への悪影響もなかった。
2	子どもの安全確保、特に通学路の安全確保については必須となる。統廃合の方針を出した後に調整しているのでは遅い。また、地域・学校等現場任せの調整とするのではなく、事前に教育委員会事務局・区役所が関係部署と連携し積極的に考えてほしい。	教育委員会事務局 学校適正配置担当課長	学校・教育委員会・区役所と PTA・地域が連携し、現場確認においても、警察や道路管理者など関係機関と双方確認したうえで、安全確保の対応を行った。
		梅南津守小学校 校長	事前にできることは望ましいが、問題が生じたときに関係者（地域、学校、教育委員会、区役所等）で話し合い解決できることが大切ではないかと思う。
3	卒業生の OB 会はどうなったのか？どうしているのか？	津守地域活動協議会 会長	OB 会は存在しなかったが、7,800 名以上の卒業生に閉校式の案内は行った。
		いまみや小中一貫校 PTA 会長	OB 会は旧小学校単位でそれぞれにまだ存在している。現在は、いまみや小中一貫校 PTA 会長としてそれぞれの行事に参加できる範囲で参加している。
4	大阪市では小中一貫の取組を進めているが、中高一貫を大阪府と一緒に進めていると聞いた。2つの方向性はどうか配慮されるのか。小中一貫となった後に中高一貫に舵を切ることはないのか？	教育委員会事務局 学校適正配置担当課長	本市教育委員会においては、平成 23 年より全ての小中学校で小中一貫した教育の推進を方針として取り組んでいる。 <b>【事後確認】</b> 本市では併設型中高一貫校として平成 20 年 4 月に咲くやこの花中学校・高等学校を設置し、ものづくり、スポーツ、言語、芸術の分野で中高 6 年間一貫した特色ある教育により専門性を深化させることを希望する生徒を募集している。 対して、小中一貫教育の推進は義務教育の範疇での取組みとして市内全ての小中学校で実施しているものであり、両者はその性質を全く異にするものである。

項番	質問内容	回答者	回答内容
5	<p>小中一貫校における就学制度について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私立の小学校を卒業し、今宮中学校に進学することはできるのか？</li> <li>・また、新今宮小学校を卒業して、私立の中学校に進学することは可能なのか？</li> </ul>	<p>いまみや小中一貫校 校長</p>	<p>どちらも可能。</p>
6	<p>今後、どんどん子どもの数が減っていくとされている。生野区においては、小学校が統合されたとしても少人数であり、そのまま中学校に進学しても少人数である。小学校だけでなく、中学校においても持続可能な生徒数を維持できるのかといったことも考慮されているのか？</p>	<p>教育委員会事務局 学校適正配置担当課長</p>	<p>毎年人口動態調査により実態把握を行い、一定期間先の入学予定者の予測をたてている。今後も区と連携しながら、実態に合わせ慎重に検討し、取組を進めていく。</p>